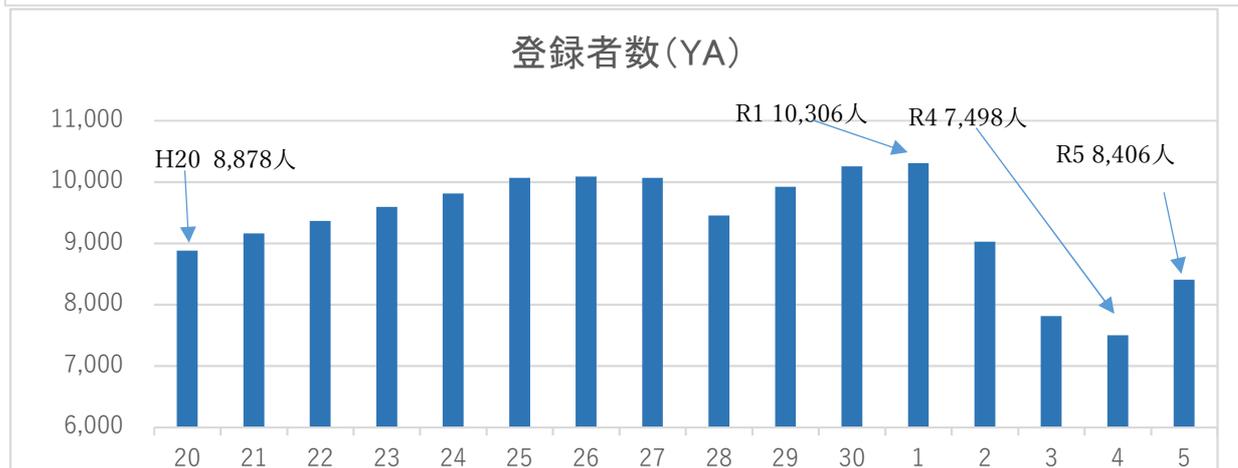
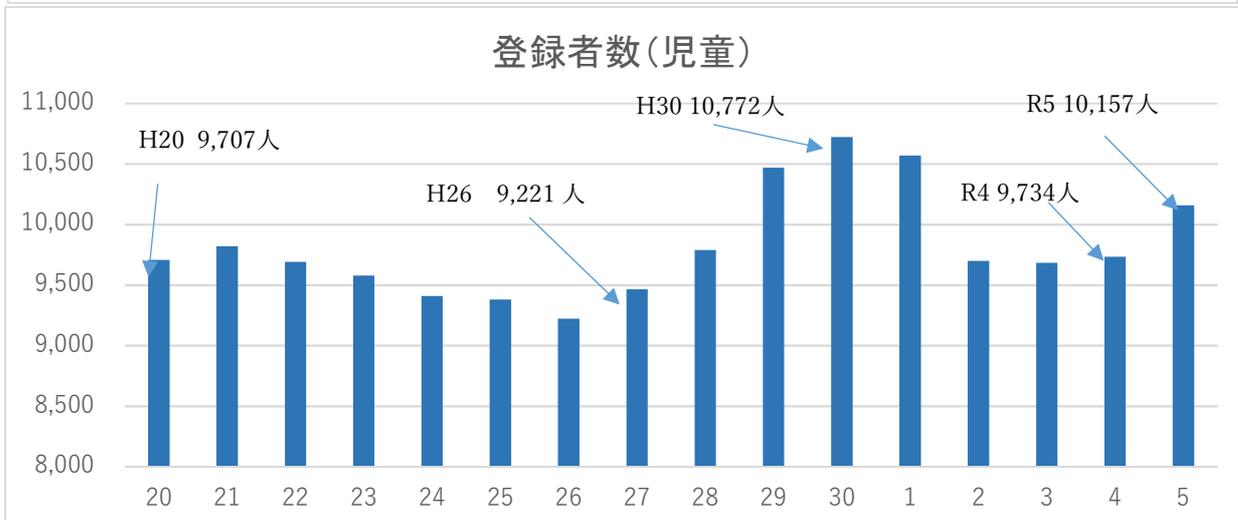
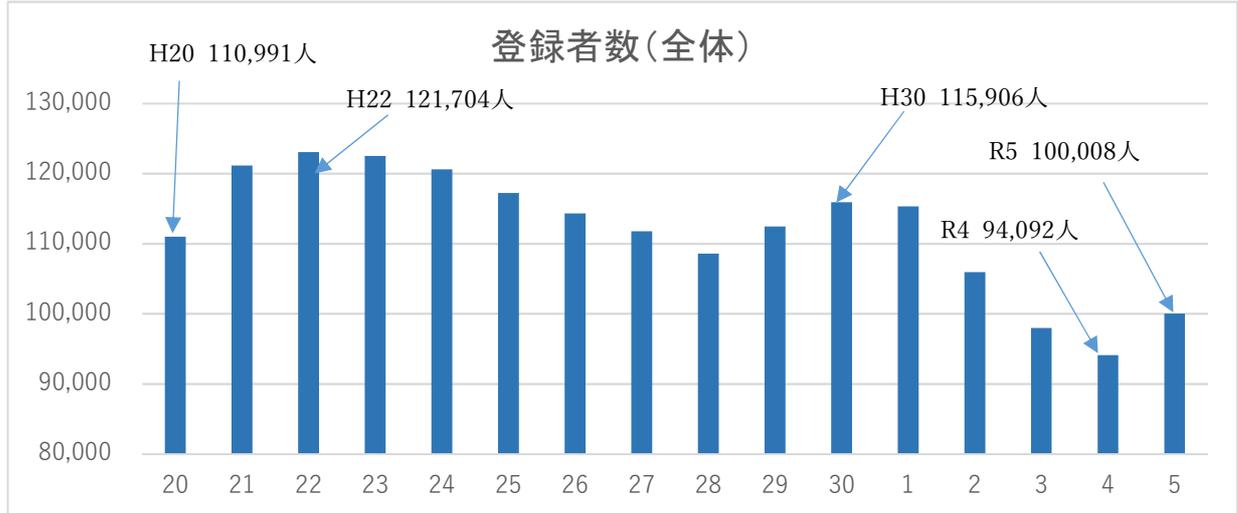


## 令和5年度区立図書館の運営状況について

### 1 登録者総数(年度末)

前年度比 5,916 人(6.3%)増加した。ただし、未だコロナ禍前には戻っておらず、直近ピークの平成30年度比で14%低い状況にある。(平成22年度の約4分の3)  
年代別では、YA(13~19歳)、児童(12歳以下)とも回復傾向にあるが、いずれもコロナ禍前には戻っておらず、特にYA層の戻りが鈍い。

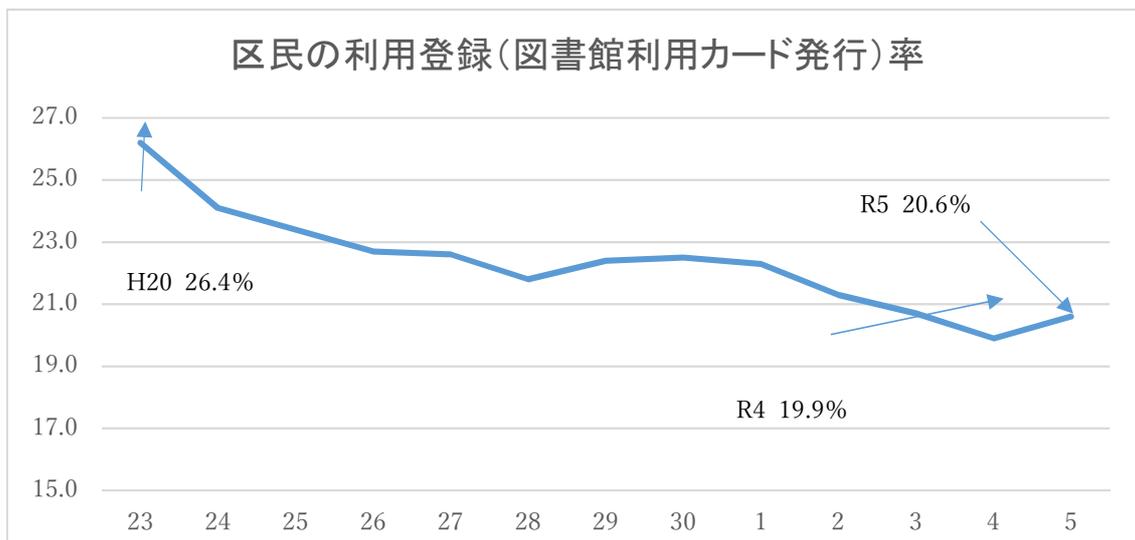


## 2 区民登録率（区民全体に占める利用登録者の割合 年度末）

前年度比 0.7 ポイント上昇の20.6%となった。

平成 22 年度の 26.4%から、令和 4 年度の 19.9%まで、12 年間で 6.5 ポイント低下したが、ひとまず下げ止まる形になった。

なお、本区は利用登録に一切の住所要件を設けておらず、(23 区中 9 区)、登録者に占める区民割合は 60.2%である。(※中央、駒込は区外在住者が多い。)

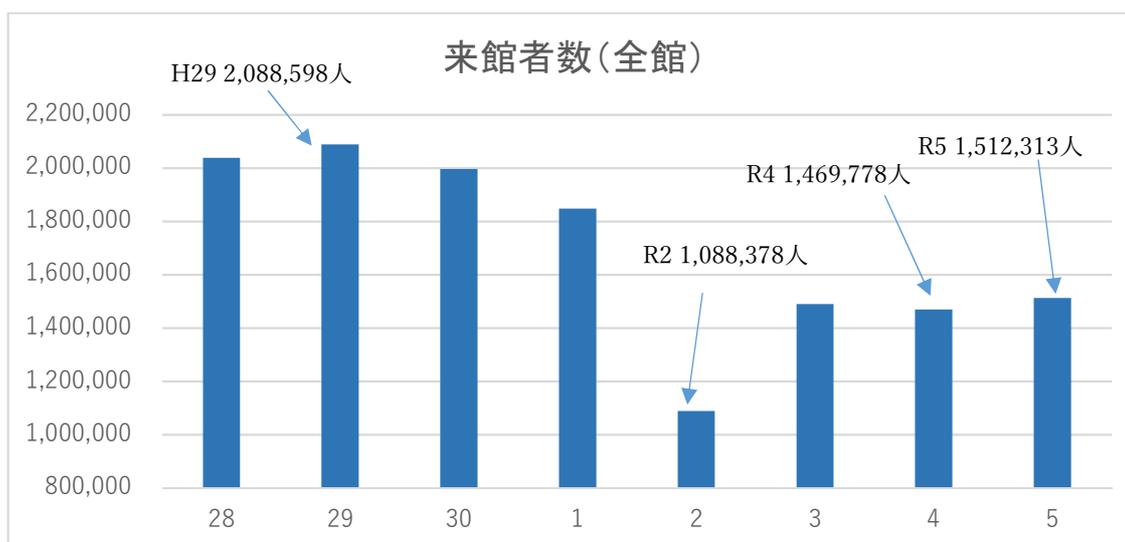


## 3 来館者数(年間)

前年度比 42,535 人(2.9%)増加した。

ただし、平成 29 年度 208.8 万人の約 7 割であり、コロナ禍からの回復の鈍さがみられる。

なお、場としての図書館の充実度を図る指標として特に注視したい。



#### 4 貸出数(年間)

前年度比 58,393 冊(2.8%)減少した。

登録者、来館者の減少に比べ、貸出冊数については比較的底堅く推移している。令和 5 年度は 2 年連続の減少となったが、コロナ禍にあった令和 3 年度の貸出数は過去最高に達している。とりわけ児童書の伸びが顕著である。図書館内で閲覧する形から、借りて自宅で読む形にシフトしている可能性がある。

登録者数、来館者数が低位な中、貸出冊数が伸びていることは、図書館を利用する者と、利用者しない者が二極化しているともいえる。(23 区全体でも同様傾向)

一方、5 年度の YA 層(13 歳~19 歳)の貸出数は 5 万 3 千冊強で、平成 20 年度 8 万 8 千冊強から約 4 割の大幅減となっている。

館別にみると地域館は堅調だが、中央館は長期減少傾向にある。

